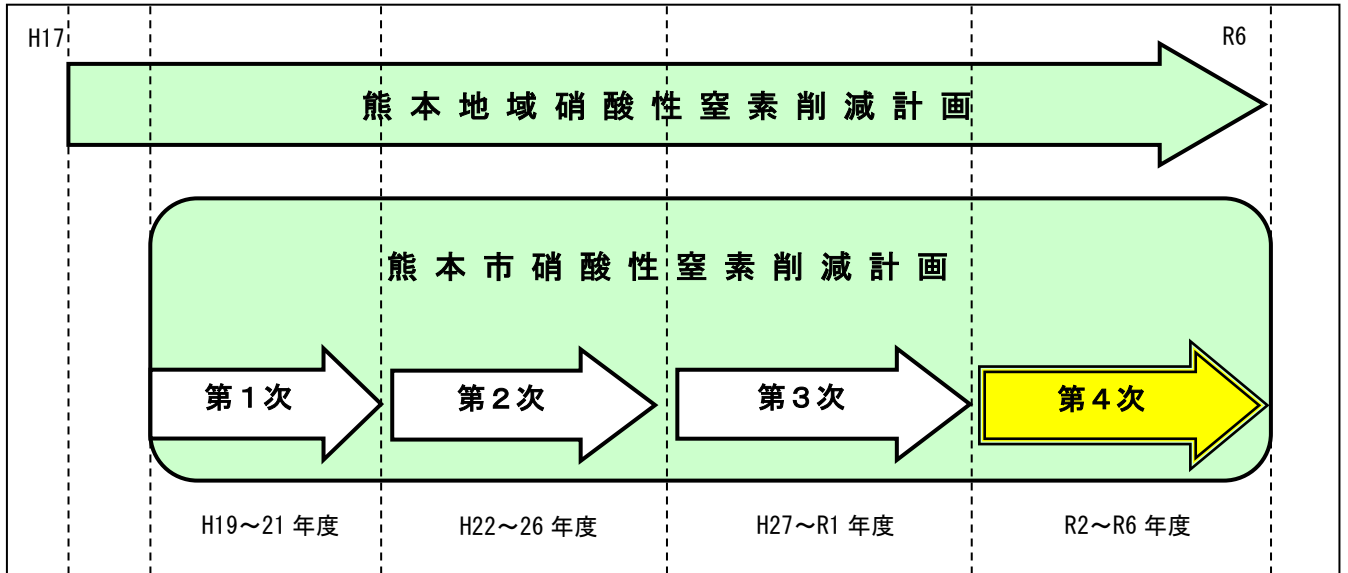
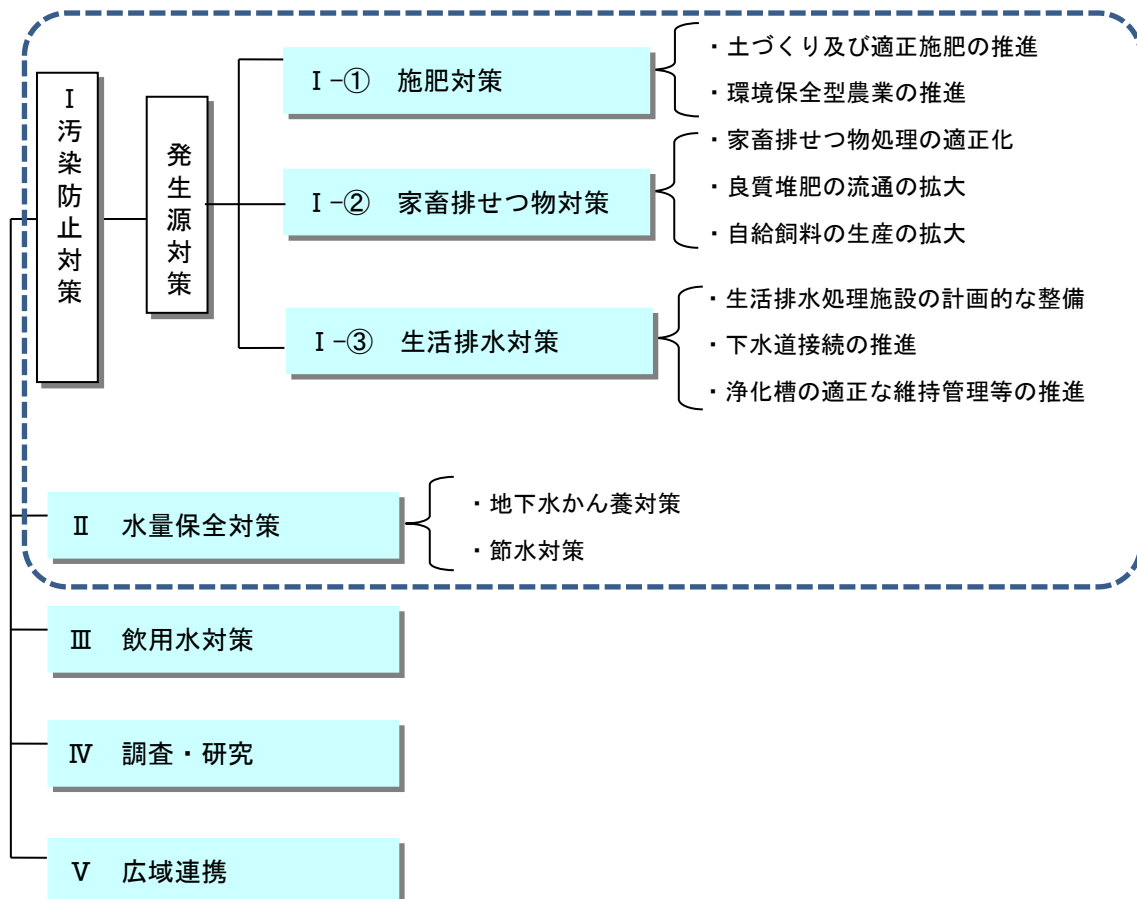


## 令和4年度（2022年度）の取組実績

### 1. 熊本市硝酸性窒素削減計画について



### 2. 対策の体系図



### 3.「第4次硝酸性窒素削減計画」令和4年度（2022年度）の実績

#### 施肥対策

#### 土づくり及び適正施肥の推進

取組	令和4年度（2022年度）の取組状況
堆きゅう肥等の有機物資源を積極的に活用した土づくりを推進し、化学肥料の投入量を削減する。	地域で確保できる堆きゅう肥や稲わら等の有機物資源を施設園芸農地等に施用するよう推進した。
定植前の土壌分析によって圃場ごとの適正な施肥量を把握し、過剰施肥を防止する。	土壌分析に関する補助事業の活用を促すなど、土壌分析の実施を推進し、各個人ごとの分析データをもとに適正施肥を指導。

〔目標値とその実績〕

指標	対象地域		当初 (R1)	実績				目標値 (R6)	達成 状況	備考
				R2	R3	R4	R5			
化学肥料の投入量 (削減)	全区		8,069 t	7,861 t	7,499t	7,097t		8,548 t以下	達成	JA 取扱量
堆きゅう肥の投入量 (増加)	西区	北西部 (果樹)	491 t	479 t	473t	505t		445 t	達成	JA 取扱量
	北区	北部 (施設園芸)	53.88 t	54.64 t	52.80t	38.89t		66t	未達成	
土壌分析実施数	全区		1,122 件	973 件	965 件	840 件		2,057 件	未達成	
土壌分析に基づく 適正施肥指導農家数 (計画期間内累計) ※	西区	北西部 (果樹)	6 戸 (単年)	4 戸 (単年)	2 戸 (単年)	7 戸 (単年)		801 戸 (延べ数)	未達成	北西部地域の全 果樹農家数： 801 戸
			426 戸 (延べ数)	430 戸 (延べ数)	432 戸 (延べ数)	439 戸 (延べ数)				
	北区	北部 (施設園芸)	154 戸 (単年)	89 戸 (単年)	117 戸 (単年)	68 戸 (単年)		374 戸 (延べ数)	達成	北部地域の全施 設園芸農家数： 374 戸
281 戸 (延べ数)			370 戸 (延べ数)	487 戸 (延べ数)	555 戸 (延べ数)					
		植木町 (施設園芸)	180 戸 (単年)	101 戸 (単年)	227 戸 (単年)	106 戸 (単年)		787 戸 (延べ数)	達成	植木町地域の全 施設園芸農家 数：787 戸
			753 戸 (延べ数)	854 戸 (延べ数)	1081 戸 (延べ数)	1187 戸 (延べ数)				
新規就農者の土壌分 析に基づく適正施肥 指導農家割合	全区		23.1% (6/26)	11.1% (10/90)	25.0% (16/64)	12.5% (2/16)		100%	—	新規就農者は就 農後 5 年間を対 象期間とする

※ 特に施肥による地下水への硝酸性窒素負荷の高い地域を対象としたもの

環境保全型農業の推進

取組	令和4年度（2022年度）の取組状況
環境保全に繋がるくまもとグリーン農業対象制度の認定を推進する。	個別農家や生産部会に対して関係機関と協力してくまもとグリーン農業対象制度の事例紹介を行い、安全で安心な農産物づくりの推進を行った。
局所施肥や肥効調整型肥料等の肥効の高い施肥技術の導入・普及を図る。	本技術の導入については、その地域にあった農作物の種類や土壌及び気象条件等に応じ施肥量を減少させる技術であるため、今後もより一層関係機関との協力により意識の啓発及び情報の提供を行っていく。

〔目標値とその実績〕

指標	対象地域	当初 (R1)	実績				目標値 (R6)	達成 状況
			R2	R3	R4	R5		
くまもとグリーン農業 生産宣言者数（人）	中央区	7	7	7	7		15人	未達成
	東区	161	161	161	161		220人	未達成
	西区	992	993	993	994		1,060人	未達成
	南区	531	531	529	530		1,080人	未達成
	北区	838	839	850	853		1,190人	未達成
くまもとグリーン農業 応援宣言者数（人）	全区	13,539	13,545	13,887	13,982		25,000人	未達成

## 家畜排せつ物対策

### 家畜排せつ物処理の適正化

取組	令和4年度（2022年度）の取組状況
家畜排せつ物の適正な管理及び処理を推進する。	関係機関と連携して、畜産農家に対し、適正処理の確認を行い、管理や処理方法・流通について助言した。
家畜排せつ物の処理施設の改善を推進する。	畜産農家に対し良質堆肥生産のための堆肥共励会への参加を働きかけるとともに堆肥生産技術情報を提供した。
良質堆きゅう肥の生産の拡大を推進する。	生産者部会会議等で、自給飼料の生産拡大や、土壌分析の必要性及び適正性について啓発を行った。また、地下水の重要なかん養域である東部地域における家畜排せつ物の適正処理を目的に整備した熊本市東部堆肥センターで生産した堆肥の広域的な流通の推進を行った。

#### 〔目標値とその実績〕

指標	対象地域	当初(R1)	実績				目標値(R6)	達成状況	備考
			R2	R3	R4	R5			
堆きゅう肥生産割合 (乳用牛)	東区	100%	100%	100%	100%		100%	達成	【東区】 8270.3t/18546.7t 残りは堆肥センターへ
	北区	43.6%	42.8%	88.6%	69.3%		70%	未達成	【北区】 1851.9t/2944.3t 62.9%
	南区								【南区】 7,902/11,127t 71.0%

良質堆肥の生産及び流通の拡大

取組	令和4年度（2022年度）の取組状況
耕種部門と畜産部門の堆肥の流通を推進する。	耕種部門に対し、良質堆肥の生産情報やくまもと堆肥ネットの活用を推進した。

〔目標値とその実績〕

指標	対象地域	当初(R1)	実績				目標値(R6)	達成状況	備考
			R2	R3	R4	R5			
余剰堆肥の流通割合 (乳用牛)※	全区	-	100%	100%	100%		100%	達成	(自家消費量) 【東区】887.95t/8270.3t 10.7% (残自家消費) 【南区】1,453.35/7,902t 18.4% (残自己利用) 【北区】380.7t/1851.9t 20.6% (残自家消費)
耕種部門の堆きゅう肥 貯留施設の整備数	全区	1箇所	1箇所	1箇所	1箇所		3箇所	未達成	

※ 第4次計画より、生産堆肥全体の流通割合から余剰堆肥の流通割合に変更

自給飼料の生産の拡大

取組	令和4年度（2022年度）の取組状況
自給飼料の生産拡大を推進する。	生産者部会会議等で、自給飼料の生産拡大や、土壌分析の必要性及び適正性について啓発を行った。
飼料畑における適正な堆きゅう肥施用や施肥を推進する。	

〔目標値とその実績〕

指標	対象地域	当初 (R1)	実績				目標値 (R6)	達成状況
			R2	R3	R4	R5		
自給飼料作物の作付面積	全区	430ha	510ha	510ha	425ha		515ha	未達成
土壌分析に基づく適正な堆きゅう肥施用の指導農地数 (計画期間内累計)	東区 北区 南区	152 地点 (単年)	34 地点 (単年)	14 地点 (単年)	15 地点 (単年)		154 地点 (延べ数)	未達成

## 生活排水対策

### 生活排水処理施設の計画的な整備

- 公共下水道の整備を推進するとともに、下水道整備区域外では合併処理浄化槽の整備を推進し、汚水処理率を高める。

〔目標値とその実績〕

指 標	対象地域	当初 (R1)	実績				目標値 (R6)	達成 状況
			R2	R3	R4	R5		
生活排水処理施設の整備 (汚水処理率)	全区	96.6%	97.2%	97.4%	97.7%		99.4%	未達成
下水道人口普及率	下水道整備 区域内	89.9%	90.3%	90.5%	90.8%		—	—
合併処理浄化槽等整備率	下水道整備 区域外	6.6%	6.7%	6.8%	6.9%		—	—

### 下水道接続の推進

- 下水道整備区域内では下水道への接続指導を推進する。

### 浄化槽の適正な維持管理等の推進

- 浄化槽の適正な維持管理を推進する。
- 浄化槽処理水は、公共の側溝、公共の排水路及び河川等に放流することとし、原則として地下浸透は禁止とする。
- 高度処理型（窒素処理型）合併処理浄化槽の設置を推進する。



## 水量保全対策

### 地下水かん養対策

取組	令和4年度（2022年度）の取組状況
良質な地下水を育むための人工かん養を推進する。	白川等の河川流量の安定と地下水かん養を図るため上流域に水源かん養林を整備した。水田湛水事業では、協力農家の減少により湛水面積ならびに推定かん養量は昨年度実績に比べ減少した。 また、宅地等において雨水を地下に浸透させることで地下水かん養を推進するため、建築確認申請等の事前協議において条例に基づく雨水浸透施設の設置指導を徹底した。
本市の地下水に最も寄与度が高い白川中流域における転作田を利用した水田湛水事業や白川等の流量を安定的に確保するため白川等の上流域に水源かん養林の整備を実施する。	

#### 〔目標値とその実績〕

指 標	対象地域	当初 (R1)	実績					目標値 (R6)	達成 状況	備 考
			R2	R3	R4	R5	R6			
地下水人工かん養量 (白川中流域の水田湛水事業による推定かん養量) (万m <sup>3</sup> )	熊本地域	1,149	1,476	1,416	1,245			1,710*	未達成	

節水対策

取組	令和4年度（2022年度）の取組状況
生活用の水使用量を削減する。また、雨水利用による節水対策を推進する。	節水市民運動を展開し、生活用の水使用量の削減を促した。 雨水利用による節水が促進されるよう、補助制度により雨水貯留施設の設置を促した。
水道の給配管からの漏水を減少させ、無駄な地下水採取を抑制する。	

〔目標値とその実績〕

指 標	対象地域	当初 (R1)	実績					目標値※1 (R6)	達成状況
			R2	R3	R4	R5	R6		
地下水採取量削減量 (地下水採取量) (万m <sup>3</sup> )	全区	920 (10,447)	945 (10,422)	1,098 (10,269)	集計中			767 (10,600)	-
市民1人1日あたりの生活用の水使用量 (L/人・日)	全区	219	229	226	222			210	未達成

※1 目標値は、「第3次熊本市地下水保全プラン」による。